

## 令和元年度 第8回柿崎区地域協議会 次第

日時：令和元年11月19日（火）委員研修会終了後  
場所：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 会議録署名委員の指名

### 4 報告事項

- (1) 次期総合公共交通計画策定について・・・・・・・・・・資料No.1
- (2) 地域協議会会長会議について・・・・・・・・・・資料No.2
- (3) 令和元年度冬期道路交通確保除雪計画について・・・・・・・・資料No.3
- (4) 地域活動支援事業の変更承認について・・・・・・・・資料No.4-1、No.4-2

### 5 その他

- ・第9回柿崎区地域協議会の開催について

日 時：令和元年12月17日（火）午後6時～

会 場：柿崎コミュニティプラザ 305～307 会議室

### 6 閉 会



1 現状調査の状況

(1) 実施状況

・計画の検討に当たり、住民の移動の実態や課題を把握するため、下記の調査を実施した。

項目	時期	目的	実施方法	実施人数
①公共交通に関するアンケート	H30年3月	市民の移動実態、公共交通に対する関心度、意見等を把握	市民6,228人にアンケートを郵送(回収率44.1%)	2,745人
②路線バス乗降調査	H30年6~7月	市内の路線バスの利用状況を把握	調査員がバスに乗り、利用者に聞き取り	5,932人
③高校生アンケート	H31年1月	高校生の通学利用のニーズ、課題を把握	高校1,2年生3,903人にアンケートを配付(回収率91.1%)	3,557人
④聞き取り調査	H30年4月~H31年2月	高齢者等の移動の実態・課題、公共交通に対する意見の把握により、再編の方向性の検討材料を収集	町内会長を訪問し聞き取り	661人
			民生委員を訪問し聞き取り	226人
			すこやかサロン参加者に聞き取り	680人
			住民を個別に訪問し聞き取り	524人
			電話等で聞き取り	282人
合計	-	-	-	15,081人

(④聞き取り調査の項目別、区・地域別の内訳)

No.	項目	安塚区	蒲川原区	大島区	牧区	柿崎区	大淵区	頸城区	吉川区
1	町内会長への聞き取り(集落カルテ調査等)	17人	34人	24人	39人	57人	22人	55人	50人
2	民生委員への聞き取り	11人	戸別訪問等を行うため実施せず	7人	10人	3人	18人	18人	14人
3	サロンでの聞き取り	80人		12人	39人	14人	151人	58人	30人
4	戸別訪問	30人	137人	3人	56人	(住民懇談会実施予定)	他の調査で傾向がつかめたため実施せずH31の合意形成時に聞き取りを実施		
5	免許返納者への聞き取り	7人	10人	1人	3人	27人	58人	1人	11人
6	その他	病院利用者、バス利用者 105人	出張何でも懇談会 52人	高齢者合唱団 20人	地区懇談会 128人	地域協と住民との懇談会(予定)	-	地区振興会役員 11人	-

No.	項目	中郷区	板倉区	清里区	三和区	名立区	合併前	小計	合計
1	町内会長への聞き取り(集落カルテ調査等)	24人	50人	25人	46人	35人	183人	661人	2,847人
2	民生委員への聞き取り	戸別訪問等を行うため実施せず	20人	8人	戸別訪問等を行うため実施せず	戸別訪問等を行うため実施せず	117人	226人	
3	サロンでの聞き取り	59人	他の調査で傾向がつかめたため実施せず	133人	8人	96人	戸別訪問等を行うため実施せず	680人	
4	戸別訪問	55人		35人	88人	58人	62人	524人	
5	免許返納者への聞き取り	0人	28人	10人	12人	0人	114人	282人	
6	その他	ひばり荘利用者 18人	板倉中PTA役員 12人	老連、まちづくり団体 20人	病院利用者、老連役員 31人	健康づくり委員会、福祉フェスタ 77人	-	474人	

(2) 調査結果の概要

①公共交通に関するアンケート (H30年3月)

■結果概要

- ・市民の約9割が公共交通を「重要」と認識
- ・70歳以上の高齢者は、約8割は自家用車により移動、公共交通(鉄道、バス、タクシー)は10.9%
- ・免許のない人は、家族等による送迎と公共交通による移動がほぼ半々
- ・便数、ダイヤ、乗換負担、ルート、運賃等の満足度が低い一方、バス停までの距離は満足度が高い

■計画への反映

- ・調査結果から読み取れる住民のニーズについて、聞き取り調査の結果とあわせ、検討の参考とする。

②路線バス乗降調査 (H30年6~7月)

■結果概要

- ・バスの利用者は、学生(小中高大)が41.4%で最多、次いで一般が27.6%、高齢者は26.4%
- ・利用の傾向(利用時間帯・区間・目的等の偏り)に応じて路線を分類
- ・バスの運行に対して意見・要望のある利用者は全体の1.4%(路線や企画切符の維持を希望する意見が41.1%、乗換の利便性向上が9.2%)

■計画への反映

- ・路線の利用の傾向を踏まえ、各地域の再編案を検討する。(利用の少ない時間帯のダイヤ見直し・減便、主な利用目的を踏まえた路線の改善等)

③高校生アンケート (H30年1月)

■結果概要

- ・公共交通により通学する生徒(冬期)は、鉄道は1,732人(48.7%)、バスは379人(10.7%)
- ・バスの運行が改善すれば利用する(継続を含む)とした生徒は768人(21.6%)
- ・バスについての改善の意見が366件あり、内容は本数・ダイヤが37.0%、運賃が14.9%

■計画への反映

- ・高校生の通学の利便性の向上の観点から、各地域の再編案を検討する。
- ・ダイヤ改正についての意見は、H31年3月のダイヤ改正に反映した。

④聞き取り調査 (H30年4月~H31年2月)

■結果概要

- ・サロンや各種集会の参加者や戸別訪問により、高齢者等の移動実態を聞き取ったほか、町内会長や民生委員から、町内の住民の移動実態について聞き取りを行った。
- ・運転免許を持たない人は、家族や近所の人の送迎により買い物や通院の用を足しているため、バスを利用しないという意見が多かった。
- ・一方、バス停までの距離、ダイヤ、ルートといった公共交通に対する意見・要望が寄せられた。

■計画への反映

- ・調査で把握した高齢者、運転免許を持たない人などの意見、ニーズを踏まえ、各地域の再編案を検討する。

2 路線バスの再編の基本的な考え方

(1) 基本方針

計画期間は令和2年度から令和9年度までの8年間とし、市民の移動手段を確保するとともに、効率性を向上することで、持続可能な公共交通ネットワークを構築する。

① 市民の移動手段の確保

- ・調査で把握したニーズを踏まえ、地域住民とともに、「乗ってもらえる公共交通」のための見直しを行うことで、市民にとって利便性の高い移動手段を確保する。
- ・公共交通の導入を行わない地域や路線を廃止する地域においては、互助による輸送への支援やタクシー券の配布等により、自助、互助による市民の移動手段を確保する。



② 効率性の向上

- ・効率性の向上により、最少の経費で最大の効果を挙げる公共交通とする。
- ・「乗らなければバスがなくなる」という現状を地域住民と共有し、路線の利用状況を踏まえ、一定の基準を下回る路線については、より効率的な運行形態への転換、さらには路線バスの廃止、互助による移送サービスへの転換を含めた見直しを検討する。

(2) 再編の基本的な考え方

① 公共交通ネットワークの整理と路線の役割分担 (P3 参照)

- ・路線を主要幹線、幹線、支線に区分し、役割を踏まえた利便性の向上、効率化を行う。
- ・駅から総合事務所を経由し、中山間地までを結ぶ路線は、幹線と支線に分割する。(宮口線等)

	主要幹線	幹線	支線
基本区間	上越妙高駅～直江津駅	駅～病院～区総合事務所	区総合事務所～集落
役割	市の中心地の駅・病院等の拠点間の移動と、市街地の生活交通を確保	13区・郊外の拠点から、市の中心地・駅へのアクセスを確保	集落から、日常生活に必要な機能がある拠点へのアクセスを確保
再編の考え方	・増便、ダイヤの改善等による利便性向上	・サービス水準を維持し、利便性を向上 ・収支悪化路線の効率化	・きめ細かな移動を確保 ・効率化のための再編が基本(運行形態の転換等)

■交通空白地の対応について(バス停から半径300メートル以上、高齢者の歩行速度:約60m/分で5分以上)

現状調査の結果	・聞き取り調査においては、自家用車や家族等による送迎により移動している高齢者が多く、十分な需要を確認できなかった。
基本的な考え方	・地域住民から公共交通の導入等について要望があった場合は、具体的な需要について聞き取りを行い、下記②と同様の指標によって十分な需要が認められることを確認した後、必要に応じて対応を検討する。(対応例) 路線の再編に伴う経路変更、公共交通の新規導入

② 路線ごとの評価に基づく再編の方向性の整理

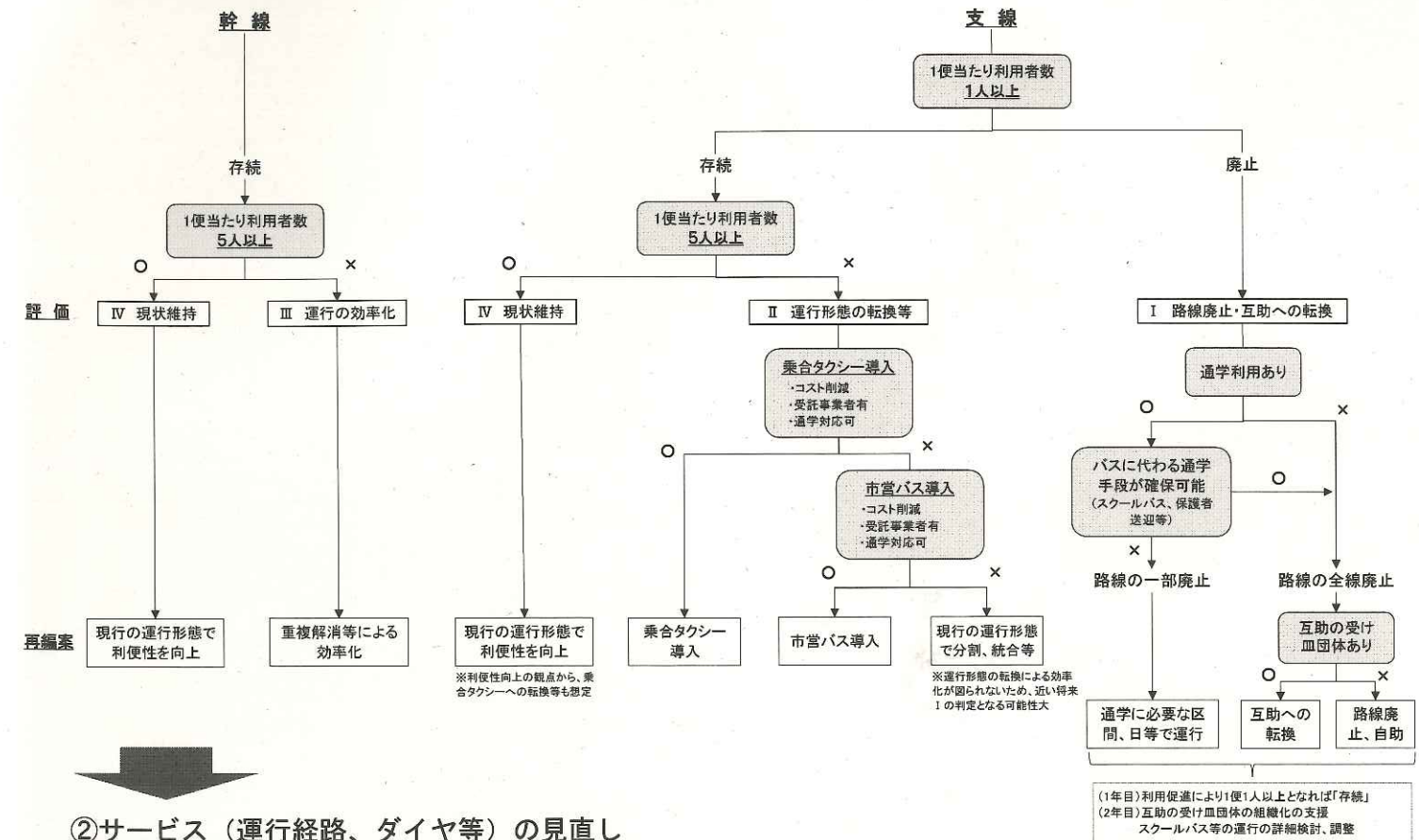
- ・バスの利用状況の視点から各路線を評価し、路線の再編の方向性を整理する。
- ・一定の利用がある路線は、地域住民のニーズを踏まえ、ルート、ダイヤ、本数等の改善を検討し、利便性の向上を図る。
- ・利用の少ない路線は、路線の重複解消、減便や、乗合タクシー、市営バス等への転換のほか、路線バスの廃止、「互助」による移送サービスへの転換を検討する。

3 スケジュール

		市全体の検討
R1年	5月～9月	・地域協議会、地区公共交通懇話会、地区懇談会等への説明・意見交換 ・地域住民、バスの利用者との意見交換
	12月	・計画案の作成
R2年	1月	・パブリックコメント
	3月	・計画の策定

■検討フロー

① 路線の存続・運行主体の方向性の検討



② サービス(運行経路、ダイヤ等)の見直し

■利用の実態

- ・路線バスの利用の傾向を踏まえ、路線のサービスの改善・効率化の方向性を整理

利用の傾向	再編の考え方(サービス改善の方向性)
A 利用時間帯に偏りあり	・利用が多い時間帯の定時便化 ・利用が少ない時間帯のダイヤ変更、利用喚起 ・利用が少ない時間帯の減便
B 利用区間に偏りあり	・利用が多い区間の維持 ・利用が少ない区間のサービス向上、利用喚起 ・利用が少ない区間のルート見直し ・幹線、支線の分割
C 利用がほとんどない	—
D 時間・区間に問わず利用あり	・更なる利便性の向上
ア 利用目的に偏りあり	・利用の多い目的のための更なる改善 ・利用の少ない目的のためのダイヤ変更、サービス向上
イ 利用目的に偏りなし	・更なる利便性の向上

■ 地域住民の意見

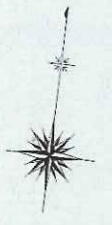
- ・利用者や地域住民の意見・要望を踏まえ、路線のサービスの改善の方向性を整理  
(例) 運行経路・ダイヤの見直し、バス停増設

③ 再編の方向性の検討

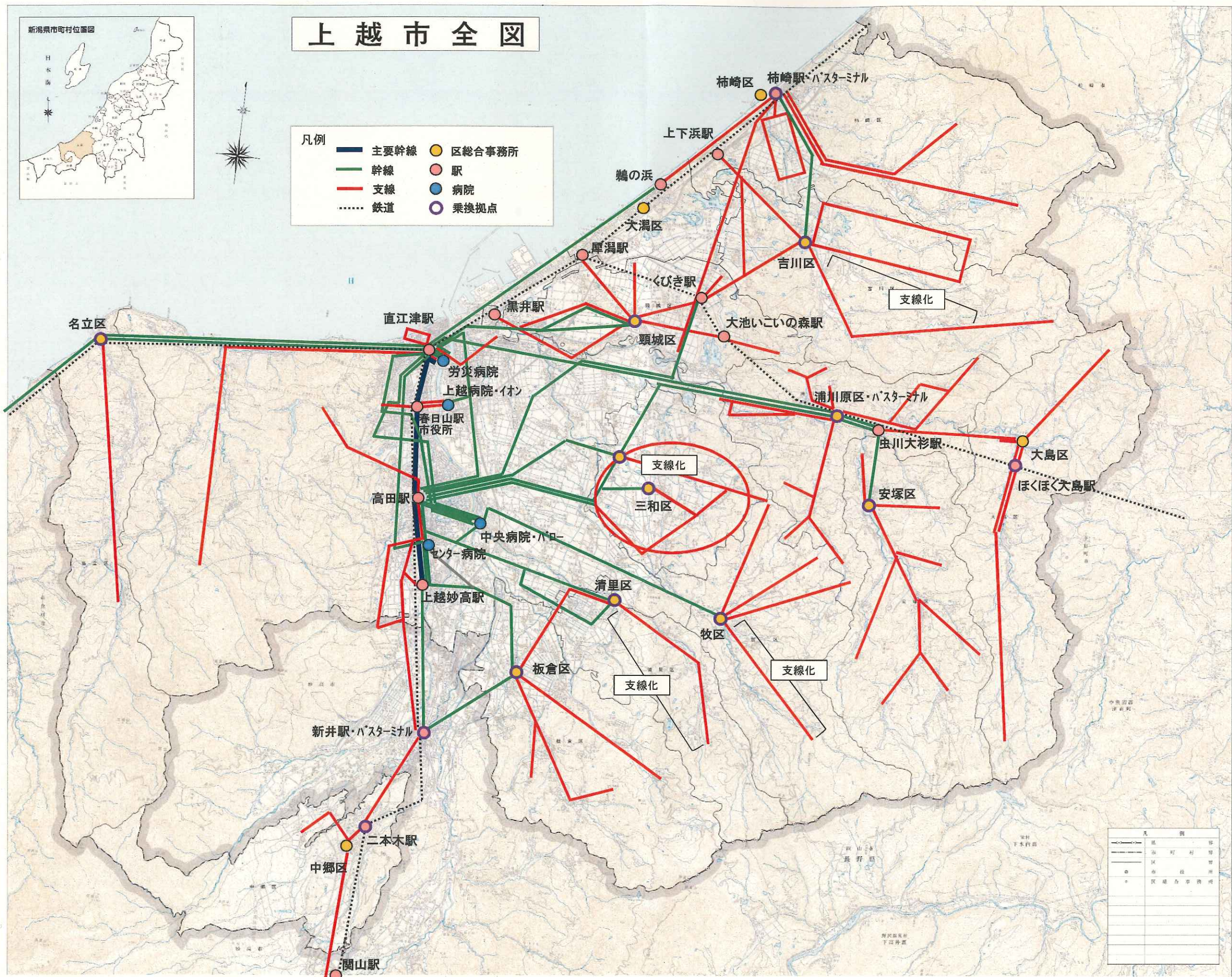
- ・路線ごとに再編の方向性を整理



# 上越市全図



- 凡例
- 主要幹線
  - 幹線
  - 支線
  - ⋯ 鉄道
  - 区総合事務所
  - 駅
  - 病院
  - 乗換拠点



凡例	
—	支線
—	幹線
—	主要幹線
⋯	鉄道
●	区総合事務所
●	駅
●	病院
●	乗換拠点

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 令元北複、第9号)」

本複製品を第三者が複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。



# 地域別公共交通の再編の方向性（柿崎区）

## 1 各路線の評価

### (1) 路線の存続・運行主体の方向性（収支状況）

No.	路線	区分	収支等の状況(H30決算)										再編の考え方①	
			経常費用 (千円)	経常収益 (千円)	経常欠損 (千円)	収支率	国県補助 (千円)	市補助 (千円)	年間利用者 数(人)	市補助/ 利用者1 人(円)	1便当たり 利用者数 (人)	平均乗 車密度	区分	内容
1	浜線	支線	13,680	1,160	12,521	8.5%	6,134	6,386	6,813	937	1.4	0.3	II 運行形態 の転換等	・乗合タクシー、市営バス等の運行 形態への転換を検討
2	黒岩線	支線	8,127	652	7,474	8.0%	1,447	6,026	2,388	2,523	0.8	0.3 0.9	I 路線廃止	・利用者が少ないことから、廃止を 検討
3	上直海線	支線	18	4	15	20.9%	0	14	18	778	0.0	1.5	I 路線廃止	・利用者が少ないことから、廃止を 検討
4	柿崎・森本線	支線	7,549	288	7,261	3.8%	0	7,261	2,091	3,473	1.1	0.2	II 運行形態 の転換等	・利用が少ない区間の廃止を検討
5	水野線	支線	3,653	187	3,466	5.1%	0	3,466	616	5,627	0.4	0.3	I 路線廃止	・利用者が少ないことから、廃止を 検討
合計			33,028	2,291	30,737	6.9%	7,581	23,153	11,926	1,941	1.0	-		

### (2) サービス（運行経路、ダイヤ等）の見直しの視点

#### ■利用の実態

No.	路線	利用の傾向 (乗降調査)	利用の特徴 (乗降調査)	再編の考え方②	
				区分	内容
1	浜線	A-I	・朝・昼の区内への通院が 主 ・朝、夕は利用少	・利用が少ない時間帯の ダイヤ変更、利用喚起	・利用の少ない時間帯の減便、ダイヤ変更による利便性向 上と効率性の向上を検討
2	黒岩線	A-I	・朝・昼は区内への通院が 主 ・朝1便目の利用がない	・利用が少ない時間帯の ダイヤ変更・利用喚起、減 便	・朝1便目の利用が全くないことから、減便を検討
3	上直海線	C	・利用がほとんどない(年 間18人)	・廃止	・利用がないため、廃止を検討
4	柿崎・森本線	C-A	・午前は高齢者の利用あり ・明治小学校の児童が下校 時に利用	・ダイヤ変更、減便	・利用が少ない区間の廃止を検討
5	水野線	C-A	・朝は通勤利用1人 ・他の便はほとんど利用な し	・利用の少ない目的のため のダイヤ変更、利用喚起	・朝1便以外の利用が少ないことから、減便を検討

#### ■地域住民の意見

No.	路線	地域住民の意見		
		利用者の意見 (乗降調査)	住民の意見 (聞き取り調査)	再編の考え方③
1	浜線	直江津まで直通、乗 継の要望(10人/36人 中)	・カルテ調査で増便の要望あり(2町内会)	・運行形態の転換を図りつつ、便数、ダ イヤの変更を検討 ・ダイヤ変更により乗継負担軽減を検討
2	黒岩線	意見なし(0人/30人)	・カルテ調査で土日運行の要望が2町内会、乗合タクシー導 入の要望2町内会	・土日運行、乗合タクシー導入の意見が あるが、利用が見込まれないため廃止 を検討
3	上直海線	利用者0人	・アンケートで「バスを利用したいが利用できない」と回答し ている人のうち、柿崎病院開院に合わせて運行してほしい という要望あり(1人/9人)	・利用がほとんどなく、意見も少ないこ とから廃止を検討
4	柿崎・森本線	意見なし(0人/9人)	-	・利用が少なく、意見も少ないことから減 便等の縮小を検討
5	水野線	意見なし(0人/3人)	・土日運行、乗合タクシー導入の要望が各2町内会 ・サロン参加者3人中1人がくろかわ診療所までの定時運行 を要望	・土日運行、乗合タクシー導入、くろかわ 診療所まで定時運行の意見があるが、 利用が見込まれないため廃止を検討

## 2 区全体の状況

### ■65歳以上の高齢者の移動先（参考）地域の送迎サービス

No.	名称	運行主体	送迎サービス		運行日
			通院目的	買物目的	
1	スクールバス	市	区内49.4%	区内61.2%	平日
2	サロン送迎	柿崎まちづくり 振興会	イオン・上越 病院周辺 26.5%	イオン・上越 病院周辺 21.2%	週3回(月、水、 金)
3	出前サロン送迎	柿崎まちづくり 振興会	中央病院周辺 13.5%	大潟区10.6%	月1回
4	認知症カフェ	柿崎まちづくり 振興会			月1回

※パーセンテージは、当該行先を回答した町内会  
の割合

### ■高校生アンケート

ダイヤ	・休日にバスを利用したいが、運行しておらず利用できない。(1人)
運賃	・冬期に電車が運休した際に路線バスを利用したいが、運賃が高く利用 できない。(1人)
鉄道	・柿崎-高田間の電車の本数を増やしてほしい。直江津駅で何時間も 待つのがつらい等本数に関する意見。(3人) ・電車の運賃が高すぎる。(1人)

### ■聞き取り調査の状況

実施内容	実施状況	結果
町内会長への 聞き取り	57人	・9割強が自家用車を主な移動手段としている。 ・既存の改善意見はあるが困っているほどではない。 ・沿線(浜線、黒岩線、水野線)では運行継続の希望が多数、 土日運行の要望が2町内会(黒岩線)、沿線以外では要望が少 ない傾向。
サロンでの聞 き取り	14人	・14人中、移動手段は自家用車と送迎が合わせて7割強 ・10人が困っていると回答し、6人は免許返納後の移動手段が ない、1人はバス停まで歩けないと回答 ・困っていると回答した10人のうち7人が空白地(七ヶ地区) の住民であり、デマンドバス、乗合タクシーを要望する意見が あった。
免許返納者へ の聞き取り	27人	・約5割が家族、近所の送迎、3割はタクシーで移動 ・10人が困っていると回答しており、バスと鉄道の接続、増便 等の意見があった。
沿線地区アン ケート(水野 線、黒岩線、 上直海線)	501人	・8割がバスを「利用していない」と回答、うち9割が「他に移 動手段があるから」と回答 ・18人が「利用したいが利用できない」と回答、うち約半数が 「運行時間が合わないから」と回答 ・ダイヤ改善、米山寺まで定時運行、水野線の便数増等の要望 あり
合計	599人	-

## 3 再編の方向性

No.	路線名	区分	再編の方向性
1	浜線	支線	・乗合タクシー、市営バス等への転換、減便を検討し、効率性 を向上 ・ダイヤ変更による利便性の向上を検討
2	黒岩線	支線	・ダイヤの見直しなどを行い、利用者が増えなければ、廃止を 検討
3	上直海線	支線	・廃止を検討
4	柿崎・森本 線	支線	・利用が少なく利用者にも偏りがあることから、利用の少ない 区間の廃止、減便等の縮小を検討
5	水野線	支線	・ダイヤの見直しなどを行い、利用者が増えなければ、廃止を 検討
6	七ヶ地区	空白地	・サロンでの聞き取りから、乗合タクシー、市営バス等の公共 交通の導入の要望があるが、需要が確認できた場合に検討

※幹線と支線の乗換拠点は柿崎バスターミナル



# 地域別公共交通の再編の方向性（柿崎区）

《地域との意見交換を踏まえた案》

